

月刊

# さわやか

第46号  
平成23年2月15日

《発行》  
(社)日野市シルバー  
人材センター  
日野市日野本町2-4-7  
0421581-8171

## 就業者はどのように選考されるのか

### 民間職場の場合 ① まず仕事の依頼から就業者募集まで

民間の職場や就業について多くの会員が「よくわからない」といいます。たとえば

民間の仕事はどつやつと入ってくるのか？

公共の職場と違って定期的な募集がなぜ無いのか？

就業者の選考はどのように？公共との違いは？

公共に比べてなぜ長期の就業があるのか？

### 民間の仕事はどんな流れで入ってくるのか

そこです。就業者選考の話の前に、仕事の依頼から就業者募集までの流れを見てみましょう。

仕事の依頼は、電話でくる、開拓で探す、電話や訪問で探す(新規、既存)等があります。ただし、何でも受ける訳にはいき

ません。適正なものつまり「適正就業」であることが必要です。事務局担当職員が行う手順は次のとおり。

1 仕事の依頼は電話が多く、まず依頼主の要望を聞く。(男女、年齢、業務内容、時間、曜日等)

2 客先へ行き、シルバの仕組みの説明をする(ハローワークや派遣との違い)。現場の確認をし、ふさわしいかどうかの判断をする。

3 条件がそろい、就業開始まで1週間待ってもらえる場合は、テレフォンサービスやホームページで就業者を募集する。(選考の仕方は2面で)

募集が至急のときは、会員に個別折衝する(会員票をもとに本人の希望職種を優先)。

会員数

平成22年12月31日

1,774名
男性 1,354名
女性 420名
入会者数
12月 26名
(男17名、女9名)
但し、退会者33名

4 決定したら客先へ行って紹介(面接ではない)。

他方、公共の職場と大きく違うところ、難しい問題もいくつかあります。たとえば、依頼主が長期の就業を要望する場合。また、就業現場で受注外の作業をしてい

あしなが心塾レインボースタッフ(定期・不定期で会員13名が就業中)



写真は記事に直接関係ありません

ないが、社員と混在して作業してないかなど。これらは「不適正就業」につながる恐れがあるので、事務局も就業会員も注意しなければなりません。

### 新任地域班長の紹介

次の2つの地域班で班長さんの交代がありましたので、紹介します。カッコ内は前任者。

○大坂上班「小林立之班長(遠山文男氏)」

○南が丘・南平台班「川辺義昭班長(武手木明氏)」

### 新法人への移行と適正就業について協議

来年度からの新法人移行に伴いシルバー人材センター(SCC)の「適正就業」が厳しく問われることになるため、東京しごと財団の第1回検討委員会が1月25日に行われました。これには、都SCCの第一〜七ブロックの代表(事務局長)が参加しました。

- 今回6ページ建て
- 2面「民間就業者の選考(続)」
  - 3、4面「質問にお答えします」
  - 5面「職場リーダーの選出は？」

# 就業者はどのように選考されるのか(続)

民間職場の場合 選考基準は公共の場合と同じ

受注の決まった民間職場の就業者は、どのように選考されるのでしょうか? 一面で見たように民間の場合、公共と違い定期募集がなく、受注に応じそのつど募集を行います。その場合、職場の就業開始までの期間の長さによって選考方法が違います。

## 公共とは違う手順で

1週間以上の期間がある場合、テレフオンサービス(火曜日・金曜日・日曜日・かえ)やホームページ(最下欄参照)で募集を知らせます。応募者が定員を上回ったとき選考の必要が生じますが、公共の場合のよつに日時を決めて就業調整委員会を開くことは不可能なため、そのつど一件一件に対し事務局で選考に当たります。

その際の判定基準は、公共の場合の就業調整委員会の基準と同じで下表のとおりです。

応募者のいない場合と就業開始が至急の場合の選考は、事務局が会員票の本人の希望職種を

もとに、該当する会員に電話で就業条件を伝えて、就業の意思を尋ねます。

## 民間職場の85%では就業期間は5年以内

事務局の担当職員は、「お客様」の要望に基づき発注に希望者がいない場合、とても残念に思います。就業を希望する会員の皆さんはぜひテレフオンサービスをお聞き下さいと強調しています。

次に、質問の多い就業期間について。民間職場の場合、単発(1日だけ)から、かなり長期にわたる

### 主な判定基準とは.....

- 未就業期間が長期の方
  - 申込み回数の多い方
  - 過去の実績評価
  - 健康状態
  - 利用交通機関
  - 希望職種・現役時の職種
  - 年齢
  - 入会理由
- 地域班会議、一斉清掃等への参加を加味するかどうかは賛否両論。

ものまで、受注先によりさまざま。発注者からは、就業に慣れた会員を替えないで欲しいとの要望が多いのも事実です。顧客満足度の観点から、発注者の要望は考慮しなければなりません。

では、公共の3年と比べて民間はどうか? 発注者と就業会員の都合により、85%の職場は5年以内で交代しているのが実態です。しかし、それでも公共より長いので、就業調整委員会で就業期間見直しの検討を考えています。

このたび会員の木下信氏(南平2班)より麻雀同好会の呼びかけがありましたので、掲載します。

### 麻雀同好会の呼びかけ

麻雀の好きな方、一緒に楽しみませんか?  
 活動内容(予定) 毎月第1・第3土曜日に定例会

代表世話人 木下 信  
 連絡先 090-4890-376

会費 無料。ただし、場所代、飲食代は個人負担。

申込み 希望者は世話人まで直接TELしてください。

### 理事会ニュース

第10回理事会 1月28日  
 審議事項 正会員の入会、職員給与改定について  
 報告事項 12月事業実績、

新法人への移行と適正就業について、各専門部会・安全管理委員会の活動報告

### 「センター」行事日程

2月20日(日) Dブロック一斉清掃 豊田駅南口  
 3月2日(水) 就業期限確認書交付式 生活・保健センター

### テレフオンサービス

5881-0555

### ホームページ

<http://www1.hinocatv.ne.jp/hsc>

### 訃報欄

＝ 該当者はありません。

### 配分金の支払日

- 2月18日(金)
- 3月18日(金)
- 4月20日(水)
- 5月20日(金)
- 6月20日(月)
- 7月20日(水)
- 8月19日(金)

# 地域班会議での質問に

## お答えします

平成22年度「後期(秋の)地域班会議」で寄せられた質問から次の13項目にわたってお答えします。  
(総務部会)

1 秋の地域班会議にも理事の出席を望みます。出席率低下防止のためにも。

回答 秋の地域班会議は、班員の情報交換や意見交換にウエイトを置いて歓談の場とし、交流を深めることを主に実施しています。理事の出席については、協議させていただき

2 女性会員の仕事を増やしてほ

ます。出席率低下防止のためには、まず、個々が積極的にセンター事業・地域に関わっていただく、地域班員が共有できる内容(地域に密着したボランティア活動の立ち上げ等)で意見交換をするなど工夫が必要だと思っています。また、出席率の高い班の工夫などを『月刊さわやか』で紹介していきます。

しい

回答 事業部会においては、介護予防事業の立ち上げを検討しています。

3 高齢者(75~80歳)の就業が悪いとのことだが、この対策と見通し。

回答 75~80歳の就業が悪いことではありません。一部の職場については、安全就業の観点から、また、発注者側の意向により、年齢制限を設けています。就業先確保の観点からも、ご理解をお願いいたします。なお、平成22年11月末現在の75~80歳の会員数は、278人です。うち、平成22年4月から11月に就業した会員数は、217人(就業率78%)です。同期間中の当センター全体の就業率は70.7%であり、平

均を上回っています。今後とも、75~80歳の方に関わらず、会員数の増加は見込まれますので、事業部会、就業コーディネーターによる就業先拡大に努めてまいります。

4 就業開拓は、民業圧迫との消極的な回答であるが、それ以前に就業先が少ないのだから、もっと積極的に行動すべきである。

回答 シルバー人材センター事業運営の手引(全国シルバー人材センター事業協会編)には、「受注する仕事の内容によつては、他の一般民間企業等との競合が生ずることもあるので、これらに従事する雇用労働者や自営業者の就業の場を浸食することのないよう十分留意し」とあります。公益法人としての運営を行つていきますので、競合が生じないよう、積極的に開拓していきます。

である。

回答 就業先が失われることのないよう、日野市の協力をいただき、進めてまいります。

6 地域班会議・社会奉仕活動の参加率低下について、現状のままでは低下する流れにある。シルバー会員全員に無記名のアンケート(仕事はしているか。年齢。参加の有無。不参加の理由等)を実施したらどうか。

回答 大変に貴重なご提案ありがとうございます。総務部会において検討させていただきます。

7 配分金について、東京都の最低賃金改定に伴いセンターの配分金との関連はどうなるのか? また、日野市の配分金レベルは他市(東京都)に比べどの水準にあるのか?

回答 シルバー人材センターの会員は、センターとも発注者とも雇用関係になく、国の最低賃金法に基づく労働者には該当しないため、本来最低賃金制度の適用は受けません。

5 指定管理者制度への取組は将来への位置付けとして、シルバーはもっと体制を整えて望むべき

会員の皆様は、センターが請

け負った仕事を委任されて就

業していただいている、いわ

ば個人事業主です。当センター

の対応については、現在、1

時間あたりの配分金が最低賃

金を下まわっている職場につ

いては、発注者に最低賃金ま

で合わせいただくよう要望を

しています。発注者の了承を

得られれば、平成23年4月1

日の就業から適用されます。

また、平成21年度の東京都58

**回答** 問3と一括回答とします。

**10** 民間の就業期間の見直しをし

てほしい。

**回答** 現状の会員を変えないで

ほしいとの要望が高い民間の

発注者があることも事実です。

顧客満足度と就業期間の見直

しとのバランス等を考慮しな

がら、調整する必要があります。

今後、就業調整委員会に

ついて検討させていただきます。

**11** 事業仕分けが当センターに

対する援助をさらに厳しく圧

縮するように報じられたが、

会員にはどのような影響がで

るのか。

**回答** 行政刷新会議事業仕分け

第3弾におきまして、シルバー

人材センター援助事業につき

ましては、「平成22年度予算

要求の3分の1程度の縮減を

確実に実施」とされていると

ころです。しかしながら、シ

ルバー人材センターは、今日

でも大変厳しい運営を強いら

れており、これ以上補助金が

削減されることになれば、シ

ルバー人材センターの機能低

下、ひいては会員の就業機会

の喪失につながり、自立した

生活の維持が困難となること

も予想されるので、国への署

名活動、要請行動を行いまし

た。

**12** 年会費の内訳をききたい。

**回答** 会員1人あたりの1年間

の傷害保険料だけで、227

0円かかっており、年会費を

超えています。ほかに、年

間のセンター契約高により決

定する賠償保険料や、「月刊

さわやか」、総会議案書など

の配布物に関わる直接経費が

あります。

**13** シルバー人材センターのカウ

ンターは挨拶がなく冷たい。

**回答** 申し訳ございません。今

後とも、接遇には十分注意し

てまいります。

秋の地域班会議出席率

今年度 29・1%

昨年度 30・8%



接遇研修会で講演する渡辺講師

**窓口就業者に接遇研修**  
企業公社が実施

昨年2月に続き日野市企業公  
社主催の接遇研修会が1月24日  
と31日、七生公会堂で行われま  
した。企業公社が指定管理者に  
なっている公共施設の窓口業務就  
業者を対象としたもので、両日で  
計162名が参加。当センターか  
らは12施設の就業会員62名が参  
加しました。

講師は昨年と同じウエルネスコー  
ディネーターの渡辺弘子氏(心理  
相談員)。接遇の基本は相手の身  
になって考える優しさと思いやり  
「その気持ちを相手に伝えること」。  
渡辺先生はこれを具体的にわか  
りやすく説明されました。



# 統括リーダー会議

～ 第3回 = 今年度最終回 ～

“就業者選考の改善提案はこの会議が出発点だった”

## 適正就業問題で討議

今年度最後となる第3回統括リーダー会議が1月12日、センター会議室で行われました。これには4人の統括リーダー＝橋本リーダー（公園スポーツ施設）、横関リーダー（自転車関係）、高木リーダー（公共施設）、片山リーダー（学校関係）のほか、北村会長、伊藤事業部会長が出席しました。事務局からは生田次長が参加、同会は田村事業部会員。

初めに司会者が、いま本紙が取り上げている就業者選考の改善提案はそもそも統括リーダー会議の討議から始まった、とのべました。つまり、各職場にふさわしい人が就業しているかどうか（適材適所）の論議が、就業者選考の再



平成22年度第3回統括リーダー会議

検討をもたらした、との認識です。討議では、橋本氏は「適材適所」と言うが、いい人材、いい職場もある、横関氏は「自転車関係者は半分交代したので研修会をした」、高木氏も「職場ではない提案事例もある。取り上げてほしい」と発言。この会議初参加の片山氏は、学校の就業現場を巡回した体験をつぶさに語りました。

北村会長は、新年度からはシルバも企業並みのコンプライアンス（法令順守）を求められることになるので「適正就業」に気を付けたいと警告。「適正就業」とは何かが一同の話題となりました。

### 「質問にお答えします」番外編

## 職場リーダーの選出は「設置要領」どおり！

本紙は昨年9月号（第41号）で「地域班会議ではこんな質問が：」と題する記事を掲載した際、質問の中には地域班長に個別に回答する場合がありますと説明しました。質問が特殊か一部の人々に係る場合です。しかし、会員全体に共通性を持つようになる場合があります。その一例が「職場リーダーの選出」に係る質問です。

ある地域班長は昨年春の地域班会議での質問の中で、「離職する職場リーダーが次のリーダーを指名し決めているが、設置要領どおりではなくて良いのか？」と問うていました。これに対する北村会長の回答は「要領のとおり実施してください」というものでした。その後、各所からこの種の質問が出されていますので、今回改めて取り上げます。

ここで言う「設置要領」とは、「仕事別（職場）グループ設置要綱」のこと。その第3条2項に「職場リーダーは、職場グループ会議において選出し、会長が委嘱す

る」とあります。平成21年1月1日施行。以前はグループ内の互選により選出。しかし実際は「指名で決める」場合あり、問題になっています。

リーダー選出を要綱どおり実施するならば、職場グループ会議を開いて決めなければなりません。予め前任者が後継者を指名することは違います。

肝心なことは、職場グループ会議を開くことです。困難もありますが、皆で工夫をして会議を開くようにしましょう。

### それってなに？

#### 職場リーダー

シルバ人材センターの会員が複数で就業している公共・民間・独自事業の職場で「仕事」が一定の継続性を有している場合、そこに職場グループを設置し、職場リーダーを置きます。

「仕事別（職場）グループ設置要綱」によれば、職場リーダーは職場グループ会議で選出し（第3条2項）、その任務は第一に「会員間の調整」と「センター事業の信用維持」（第4条）。次いで職場グループの運営、会員の仕事に対する意見・要望の調整等。

# 職場安全巡回が大詰め

公共施設、学校、公園、民間職場等



当センターの安全管理委員会が毎年実施している「職場安全巡回」は、2月上旬までに一部を除いてほぼ終わりました。

今年度の巡回先は、公共・民間・自主事業をふくめ計42カ所の就業現場。内訳は公共施設9、小学校11、公園関係4、自主事業の現場10、民間職場7、その他1。安全管理委員8名が手分けして回りました。



平山小学校正門(会員7名が就業)

巡回要領、報告事項は例年通りで特別のことはありませんが、就業現場の声として今回目立ったのは、「事務用品や掃除用具など業務上必要なものを就業会員が自分で買って調達するケースが増えている」こと。さらに、そうした事態の把握もふくめて、「事務局職員に見回りにきてほしい」という要望でした。

安全管理委員会での討議では、職場安全巡回のほかに統括リーダーによる日常的な巡回もあり、就業現場では「同じような訪問」といつ受け止めがあることを重視。今後は2種類の巡回を一本化する方向で検討したいということになりました。

## AED講習会のお知らせ

2月21日(月) ≡ 勤労青年会館  
2月28日(月) ≡ 七生公会堂  
今回は日野市企業公社の主催のため、参加は指名者に限ります。

(平成22年度安全標語佳作から)

転ぶまい 足もと段差に

(最終回)

要注意

横東 正良(平山)

## 都SC重篤事故の原因は 脚立転落と自転車事故

東京しごと財団(シルバ)人材センター「SC」東京都連合)発行の「財団安全通信」最新号(1月17日付)によると、都SCで平成21、22年度に計4件の重篤事故(入院180日以上)の事故)が発生しています。

うち2件は、いずれも植木剪定作業中に脚立から転落。60代と80代の男性。傷害は頸椎損傷、右顔面挫傷と脊髄損傷、肋骨骨折。他の2件は、ともに70代の女性による自転車事故。就業先からの帰宅途上、交差点で自動車に接触。1人は脳内出血、他は硬膜下血腫とともに半身不随に。

## 事故報告は直ちに 事務局へ

事故報告については、このころ毎号でお願いしていますが、引き続き励行のほどお願いします。

(安全管理委員会)

市実施の特定健診、生き生き健診は必ず受けましょう

問合せ先 ≡ 市健康課、保険年金課

## お元気ですか

銀世界、それは四国生まれの私のピュアーな思い出の一つだが、少年の頃に故郷が雪一色に覆われた記憶は少ない。積もるのは夜中に降った時のみである。早朝、戸をあけるとシーンと静まりかえった雪の世界、珍しくもあり興奮したものである。

日野市に引越してから20数年が経つ。最初の数年はひと冬に何回かの降雪をみた。朝早く静寂の雪景色を見て感動し、自宅前の道路の雪かきも楽しかったが、近年この地で雪を見るのは珍しくなった。

今年の冬、日本海側の地方から大雪の便りが頻繁に届く。特に山陰地方は記録的な降雪量である。雪国の人々にとって雪は厄介ものかもしれない。雪下ろし中の事故のニュースもある。しかし、南の国で育った私にとって雪は特別のものである。近頃、故郷に帰る機会はすくなくなってきたが、懐かしい故郷の野山が銀世界になった景色をもう一度見てみたいものである。

(今村 優)